

## 廃棄物処理施設整備による価値の提案

### 1 価値創出の種類

#### (1) 地域事業との連携

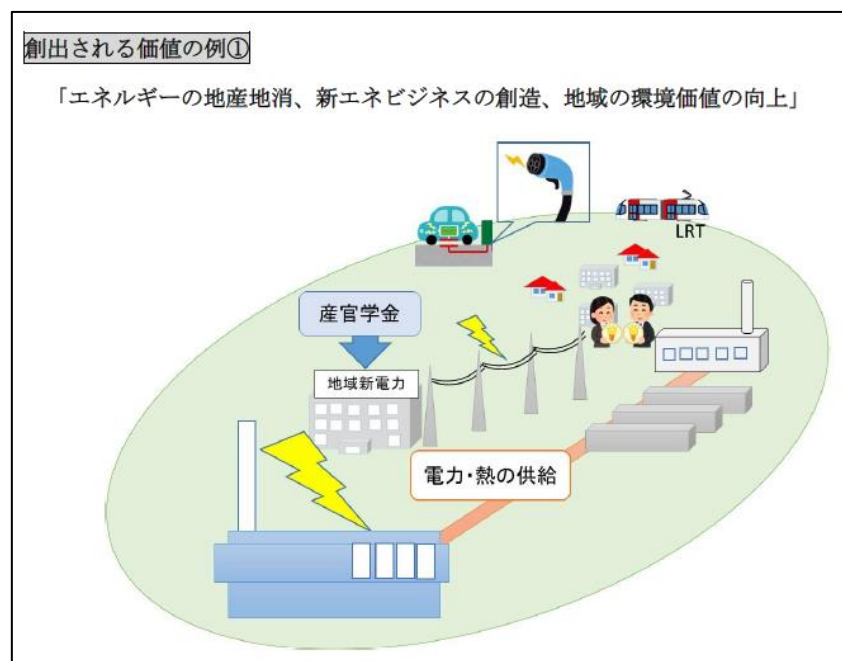
ごみの焼却にともなう熱は、回収してエネルギーの地産地消に貢献できます。

具体的には、新エネビジネスの創出として、地域の民間企業等と連携した地域新電力の安定的なベース電源としての活用が考えられ、事業の環境価値を高めることができます。

地域の事業者にとっても、地域内で再生可能エネルギーを調達できることは競争力を高めることにつながり、新たなビジネスチャンスにも繋がります。

「温水」や「蒸気」を民間の施設に供給している事例は、農業施設や工場等があります。

なお、外部熱供給先の位置については、官民を含めほとんどが廃棄物処理施設から 1km 以内となっています。

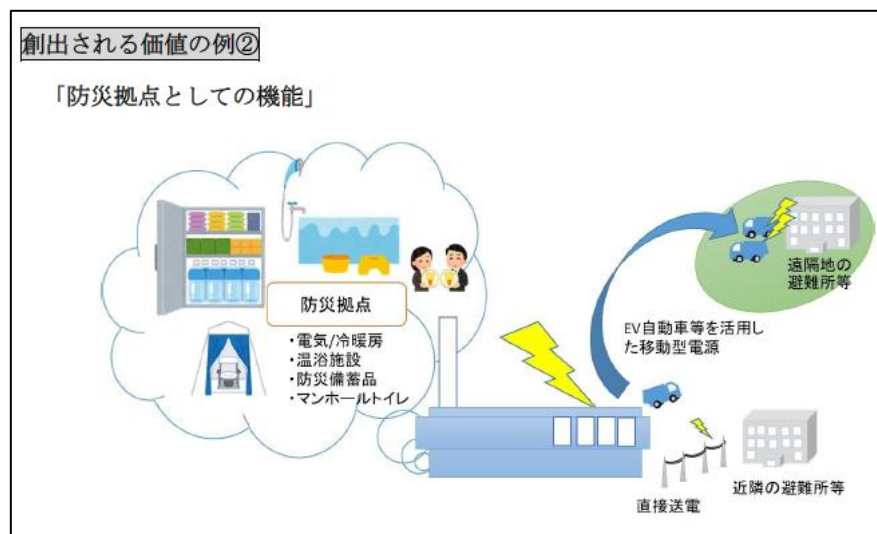


出典：多面的価値を創出する廃棄物処理施設整備促進 ガイダンス

図 1 エネルギーの地産地消のイメージ

## (2) 防災拠点として活用

廃棄物処理施設が強靱な施設である機能を活かし、地域の避難所として機能することができます。また、災害時に大規模停電が発生した場合でも、廃棄物処理施設では、自立分散型エネルギー供給拠点として、回収したエネルギーを電気や熱として施設内や近隣施設へ供給することができます。処理施設に加え、近隣に避難機能を持つ公共施設を整備する事で、廃棄物処理施設を核とした防災拠点として機能することが可能です。



出典：多面的価値を創出する廃棄物処理施設整備促進 ガイダンス

図 2 防災拠点のイメージ

## 2 事業での活用事例

## (1) 余熱を利用した事例（ビニールハウスに熱を供給）

表 1 活用事例 出典：彩北広域清掃組合 H.P 資料 余熱利用の事例

項目 1	項目 2	内容
余熱利用 施設	名称	施設 K
	供用開始	平成 27 年 6 月
	施設概要	<p>廃棄物由来固形燃料を利活用した発電付きボイラーからの熱電併給システムによりフルーツトマトや花卉の生産を実施。</p>  <p>蓄熱材輸送（トランスヒートコンテナ）による施設園芸へのオフライン熱供給。<sup>注）</sup></p> 
	施設規模	40,000m <sup>2</sup> （ハウス敷地面積）
	熱使用量	－（不明）
処理施設	竣工年	平成 20 年（2008 年）
	処理能力	144 t / 日
	余熱利用	熱利用方法：蓄熱材輸送、電気 発電出力 最大 1,500kW

注）潜熱蓄熱材をコンテナに充填し、蓄熱材の融解熱として高密度に熱エネルギーを蓄えて、車輛により広範囲に熱を供給する技術

# 資料3

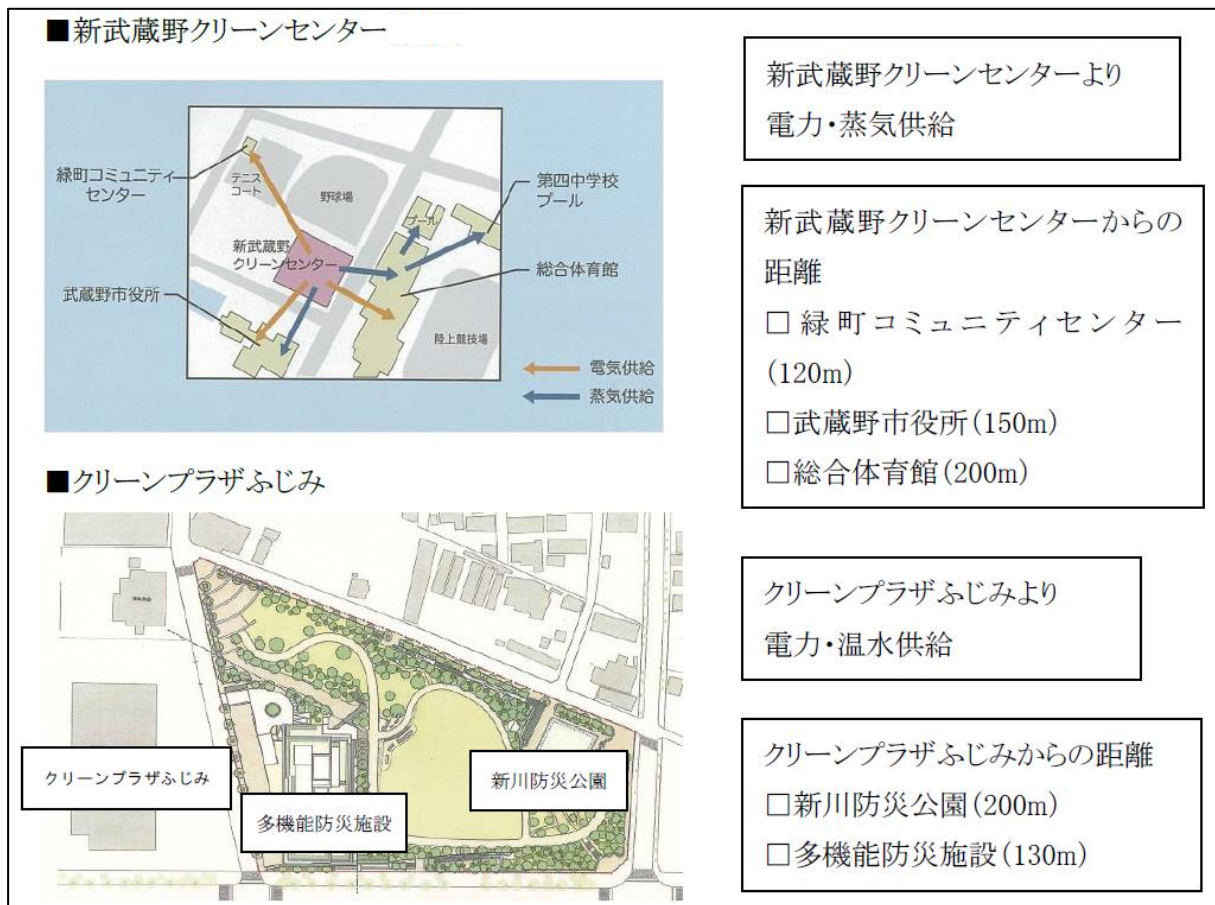
令和6年8月20日

第1回東濃西部広域ごみ焼却施設整備等に係る基本構想策定委員会

## (2) 避難所としての活用事例

災害時の地域住民の避難場所や帰宅困難者受け入れ施設として活用を想定している。平常時は管理棟、啓発施設、研修室として使用している施設等で、飲料水、食料の備蓄を予定している。

※新武蔵野クリーンセンターは東京都武蔵野市、クリーンプラザふじみは東京都調布市に立地。なお、後者は三鷹市と調布市で構成するふじみ衛生組合で管理運営している。



出典：公益財団法人廃棄物・3R研究財団

図3 エネルギー供給する周辺施設との位置関係